

高く・強く・楽しく



柏崎体育

第187号

Kashiwazaki City Sports Association

(一財) 柏崎市スポーツ協会広報誌

2023年8月28日発行

編集●(一財) 柏崎市スポーツ協会広報部

印刷●柏崎インサツ

令和5年度 新体制について

新会長 就任のあいさつ

■ 一般財団法人 柏崎市スポーツ協会
会長(代表理事) 本間 敏博

今年4月に開催された当スポーツ協会評議員会並びに理事会において、前会長坂井和之様の後任として、9代目の会長(代表理事)に就任しました。

100年を迎えた歴史と伝統ある柏崎市スポーツ協会会長の重さを痛感しています。

当市には、現存する日本最古の公認グラウンドであります陸上競技場が100年を迎えます。大運動場建設という壮大な計画の基で「柏崎を日本一の体育の都に」「体育の理想郷柏崎」を掲げ、市民の健康づくりに邁進してきた多くの先人が培ってきた有形無形の財産があります。

柏崎の子どもから高齢者まで、誰もが生涯にわたってスポーツに親しむことができ、心と体の健康づくりと地域社会の元気づくりに貢献できるよう精一杯努めてまいります。併せて当スポーツ協会の基本理念であります「スポーツ文化の風吹くまち・柏崎」を未来に誇れる財産として引き継いでまいります。

これからも時代の変化に捉われず「進んでスポーツに取り組む市民」、「トップアスリートを目指し活動する市民」、「スポーツに関心をもち、スポーツを楽しみ、挑戦する人を支援する市民」を具現化するため、34加盟団体それぞれが持っている特性を活かしながら、新たな挑戦とともに進めてまいります。

スポーツは、自ら進んで共に楽しむものであり、全ての人にとって欠くことのできないものでもあります。未来を担う子どもたちにとってスポーツの存在と役割は大切で大きな貢献を果たしているものでもあります。子どもたちを始め、全ての市民がスポーツに親しみ楽しみながら輝き、柏崎の未来づくりの担い手になれるよう支え、応援できるスポーツ協会であり続けたいと考えています。

関係各位のご理解とご協力を改めてお願い申し上げます。



◆◆◆ 令和5年度 役員(理事・監事・事務局等) ◆◆◆

会 長	本間 敏博
副 会 長	佐藤 幸治
専務理事	佐藤 秀樹
理 事	選手強化部 部長 柴野 太(常務理事) 副部長 霜田 哲也
	普及振興部 部長 井比 孝広
	広報部 部長 重野 典子 副部長 牧野 輝男
	財務部 部長 小池 和夫 副部長 小黒 裕二
	柏崎市スポーツ少年団本部長 今井 孝彰
監 事	歌代 信夫 廣川 功一
事務局員	池田 香織(主任) 長谷川 雛子

どうぞよろしくお願いいたします!

新しいスポーツの形を目指して ～コロナ禍を乗り越えて～

「コロナ禍における大会運営を振り返って」

NPO法人柏崎バスケットボール協会 事務局長 片桐 準

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、ここ数年、様々な感染症対策に取り組みながら大会運営を行ってきました。無観客開催、入場の際の体温等チェック、会場の消毒の徹底など、これまで実施したことのない対応を毎回手探りで取り組んできたところです。

昨年度は、当協会主催・主管のU12の3大会（柏崎日本海ライオンズカップ、JAカップ、しんぎんカップ）のほか、2019年以来3年ぶりに北陸バスケットボール選手権大会を開催することができました。ひとえに大会主催者様、運営スタッフそして選手、保護者の皆様の御理解と御協力によるものであり、この場をお借りして感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、大会運営も徐々に元の姿に戻っていくと思いますが、コロナ禍で得た経験を今後の大会運営に活かしていきたいと考えておりますので、ぜひ大会会場に足をお運びいただければと思います。



「新しいスポーツの形を目指して～コロナ禍を乗り越えて～」

柏崎ワンバウンドバレーボール協会 会長代行 坂田 欽一

当協会は生涯スポーツの振興と、高齢者のスポーツ活動を推進することを大きな目的としている。会員の多くは70歳代、80歳代であり、コロナウイルスに限らず感染症については高いリスクを負っている。

感染を防止するため、年間6回ほど計画した大会を中止したこともあった。その後は自前でアルコールスプレーを設置したり、接触を避けるため試合前後の選手同士の握手をやめたりするなどの措置を講じて大会を開催し、現在もこの対応は続けている。

また、近年は会員が減少傾向となっているが、誰でも気軽に取り組める高齢者スポーツであり、多くの方々から参加していただきたいと思っている。



全国大会へ向けて(激励会の様子から)

全国高等学校総合体育大会(インターハイ)の激励会を行いました 愛称「翔び立て若き翼 北海道総体2023」 スローガン「轟かせ魂の鼓動 北の大地へ大空へ」



7月13日(木)に柏崎エネルギーホールで、令和5年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)に出場する選手の激励会を開催しました。県予選を勝ち抜き、見事インターハイの出場権を獲得した陸上競技(柏崎高校、産大附属高校)、ソフトテニス男子(産大附属高校)、卓球男女(産大附属高校)、なぎなた(柏崎常盤高校)の選手が参加しました。

本間敏博スポーツ協会会長、近藤喜祐教育長をはじめ各競技団体の会長から激励の言葉をいただきました。激励を受けた選手は、大会に向けた決意を力強く述べていました。

大会は陸上競技と卓球は札幌市、ソフトテニスは苫小牧市、なぎなたは千歳市で行われます。応援よろしくお願いいたします。

なぎなた



あんざわ
安澤

ひなの
日菜

県立柏崎常盤高等学校

大舞台への不安はありますが、メリハリを意識した練習を着実にこなしています。

暑い中での練習は厳しいですが、これまで仲間とともに乗り越えて来ました。部員同士とても仲が良く、コミュニケーションがとれていると思います。先生やコーチ、保護者の皆さんに感謝し、自信をもって堂々と戦ってきたいと思っています。

卓球(男子)



なかじま
中島

とうき
瞳輝

新潟産業大学附属高等学校

県大会では団体戦、ダブルス、シングルの全てに優勝し、インターハイの出場権を獲得しました。県大会の勢いそのままに、団体戦では目標のベスト8を、ダブルス、シングルスは昨年度の成績を超えられるようにチーム全員で協力し合い、ベストを尽くして頑張ります。

応援よろしくお願いいたします。

加盟団体のPRコーナー



「小学校体育連盟活動紹介」

柏崎刈羽小学校体育連盟事務局 佐藤 貴信

柏崎刈羽小学校体育連盟は、小学生の体力向上を目的とし、九月に親善陸上大会を開催しています。昨年度、3年ぶりに親善陸上大会を開催することができ、柏崎刈羽の6年生約680名が柏崎市陸上競技場に集結しました。

今年度は声出し応援が可能です。学校の垣根を越え、最後まで走り切ろうとする選手に精一杯声援を送る子どもたちの姿は、親善陸上大会の魅力の一つです。

今後も活動を通じて子どもたちが自身の成長を実感できるような運営に努めていきます。



「大変革記に於ける部活動」

柏崎刈羽中学体育連盟 会長 須藤 泰司

令和5年度、中学校を取り巻くスポーツ環境は今までと大きく変わりました。少子化で野球など集団種目が一校だけでチームを組めない状況があったり、土日もなく指導に取り組んでいた教職員の時間外勤務時間が膨大で、新たな教職員のなり手が減少したりするという課題に直面しました。これを改善すべく、土日の部活動指導の地域の受け皿作りに市教育委員会が着手し、整備が進んでいます。また、部活動ガイドラインを遵守し、生徒たちの心身の健全な育成に継続的に努めるクラブチームに中体連主催大会の出場を認めることにもなりました。柏刈地区から、野球で初めてクラブチームが県大会に出場します。これからも、時代の先を読みつつ、子供たちが安心してスポーツに親しみ、個性の伸長を図れるよう中学校体育連盟も努めて参ります。



「新潟産業大学」

新潟産業大学

今年度から新たに陸上競技部が加わり強化指定部が6部（陸上競技、水球、サッカー、卓球、空手道、ライフセービング）となりました。

水球部は7月に香港にて開催された海外試合で見事銅メダルを獲得しました。サッカー部は現在北信越リーグ1部に所属しており、全国大会出場まであと一歩のところまで戦績をあげています。卓球部や空手道部も毎年全国大会に出場できるよう練習に励んでいます。ライフセービング部は水辺の事故を未然に防ぐため、日々の訓練で確かな技術と体力を身に付けています。

それぞれの部が地域とのつながりを持ちながら活動を行っています。どうぞ、応援のほどよろしくお願いいたします。



「ゴルフの精神」

柏崎・刈羽ゴルフ協会 会長 植木 英雄

ゴルフはほとんどの場合、審判員の立会いの無い「自律」のゲームです。プレーヤー 1人1人が他のプレーヤーに心配りをし、ルールを守ってプレーをするという誠実さに信頼を置いているスポーツです。ゴルファーの倫理レベルは非常に高いものと思っています。時には規則違反もありますが、故意にではなく、不注意や、プレー上のミス、勘違い、ルールを熟知していなかった等、が原因であるものと思われまます。故意に不正をおかすプレーヤーはいないと思います。

大空の下、楽しい時間を我々と御一緒に過ごしませんか！！



「ライフセービング活動」

柏崎ライフセービングクラブ 池谷 雅美

コロナ禍で、当クラブも活動が制限されてしまったことがいくつかあります。その中の一つとして、小学生から高校生まで対象のジュニア・ユースプログラムです。このプログラムは、水辺で自らの命を守る技を体験から学んで頂いています。近年、海が苦手なお子様や、海は危ないからと遠ざけしてしまうことが多くなっています。海の危険性を体験から学び、海と親しみ正しい知識を身に付けて頂くことが大切です。また、海やプールで行われている競技会にも参加しており、世界で活躍する日本代表選手たちを輩出してきました。今年に入り少しずつですが、ジュニア・ユースプログラムも再開しています。

柏崎ライフセービングクラブでは、一年を通じて、ライフセーバーの育成や、心肺蘇生法講習会も行っています。夏季のシーズンは、日本ライフセービング協会の救助資格を持ったライフセーバーが市内4カ所の海岸を監視し、水辺の事故ゼロを目指し活動を行っています。年間を通じて、一緒に活動して下さるメンバーも募集中しております。



「陸上競技の普及を目指して」

柏崎T&Fジュニア陸上教室事務局 川尻 優

当教室は、競技力向上と心身の成長を促すことを目的に、小学3から6年生を対象に行っています。今年も124名が、建設100周年を迎えた柏崎市陸上競技場で練習に励んでいます。

さらに競技力を磨きたい子どものため、アスリートクラブや冬期陸上教室も実施しています。希望者は各種大会にも参加し、自分の記録や他の選手との競争に挑んでいます。

一人でも多くの子どもに、陸上競技の魅力を味わってもらえるよう、教室の運営に努めています。



柏崎市・東村山市交流事業のようす

柏崎テニス協会

7月14・15日、柏崎・白竜公園テニスコートにおいて「東村山・柏崎親善対抗戦テニス大会」が開催されました。新型コロナの影響もあり、今回は5年ぶりの開催、さらに東村山の皆さんが柏崎を訪れるのは7年ぶりとなりました。久しぶりということもあり、バスが到着するや否や、横断幕を掲げて大歓迎！など、終始和やかなムードで交流会が行われました。

東村山体育協会からも、齋藤会長、川崎理事、間野事務局長がお越しになり、選手の皆さんを激励されるとともに、前日には、櫻井市長を表敬訪問し、東村山と柏崎の今後の末永い交流を約束されていました。

このあとも、学童野球、ゴルフ、ウォーキングなどの団体が交流事業を予定しています。



スポーツの現況(学校部活動の新たな形)

中学校では、令和8年度の本格実施を目指して「休日の部活動の地域移行」が進められています。休日(長期休業中は除く土日・祝日)は、学校ではなく、地域で部活動を実施していきます。これまでの部活動の教育的意義を継承しながら、多様なスポーツや文化芸術とおし、社会性や人間性を育む場となる活動環境を創っていかうというものです。柏崎・刈羽においては、すでに、陸上競技・軟式野球・バスケットボール・ソフトテニス・バレーボール・剣道の6競技で地域移行の試行を進めています。

スポーツ協会も、市教育委員会と連携して、次のように地域移行を推進しています。

- 「指導者バンク」の整備と各団体への指導者の派遣
- 指導者が取得している資格等により指導者を認定する「公認スポーツ指導者制度」の導入
- 指導者の資質向上を目指した「指導者講習会」の開催
- 部活動に携わる指導者に謝金等の支援をする「中学校運動部活動指導者支援事業」の実施

このように、主に指導者側を中心に事業を展開しています。子どもたちが、安心して自主的・意欲的に取り組めるスポーツ文化芸術の環境づくりに、スポーツ協会も貢献していきます。

〒945-0061 新潟県柏崎市栄町18-11 柏崎市武道館内

一般財団法人 柏崎市スポーツ協会 広報部

TEL 0257(22)5597 FAX 0257(41)4001

e-mail: info@kashiwazaki-sports.jp URL http://www.kashiwazaki-sports.jp